

羽柴秀吉書状



羽柴秀吉から瀧川彦二郎（忠征）に宛てたお礼の書状です。文書の形式は折紙で、署名に「羽藤（羽柴藤吉郎秀吉の略）」とあることから、天正七年から天正九年の間に出されたと考えられています。内容は見舞いの手紙を受け取ったこと、熨斗アワビが届いたことに対するお礼、秀吉は現在普請中で終わり次第そちらへ伺うこと、その時に詳しく話したいこと、が書かれています。この時の秀吉は織田信長の家臣で中国攻めを行っていました。瀧川彦二郎は信長の家臣である瀧川一益の家老を務め、一益没落後は秀吉、徳川家康に仕え、最終的には初代尾張藩主の徳川義直の家老となった武将です。

この「羽柴秀吉書状」は夏の収蔵品展で展示予定です。